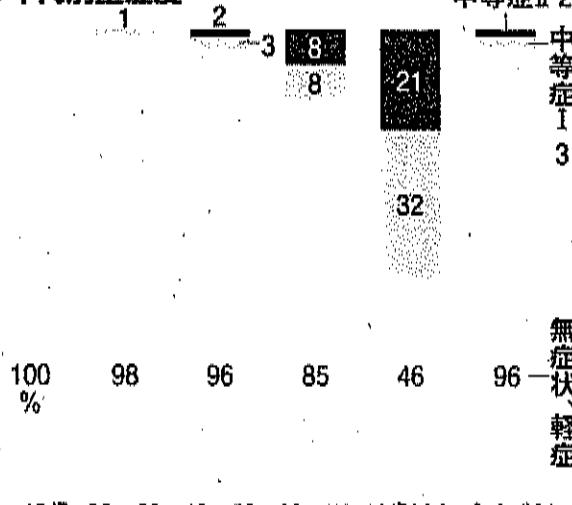


# 沖縄 高齢者に広がる感染

## 症状重くなる傾向

宮古・八重山医療圏の新規感染者(1月1~16日)  
の年代別重症度



沖縄県のデータから、高山義浩医師が分析。グラフの数字は小数点以下を四捨五入したため、合計が100%にならない場合がある

全国に急拡大する中、他の地域でもこの先、沖縄と同様の事態が起きうる。  
1月25~8日に感染が確定した人と、9~15日に確定した人を年代別に分析した。20、30代は2~8日は420人と全体の約63%を占めていたが、9~15日は全体の41%の396人減少。逆に40、50代は1

0代以下も、2~8日の軽症者が大半だが、高齢になるほど重い症状が多い。

10代以下も、2~8日の無症状、軽症は1034人から2~3倍の2421人に増加した。

陽性者1234人の重症度を分析した。息切れや肺炎のある中等症Ⅰの割合は、金年齢では2~6%。これに対し80歳以上は32~35%、60、70代は7~6%。酸素吸入が必要な中等症Ⅱは全体の1~6%で、80歳以上だと21~4%だった。

## 新型コロナ

高山さんは「家庭や職場を介して、全世代へと感染が広がってきた。高齢者や基礎疾患のある人が感染すれば入院治療が必要になりやすい。このまま高齢者の感染が増加すると、必要な人が入院ができなくなる可能性が高まる」と話す。

内閣官房の資料によると、18日時点の県内の確保病床使用率は58%。2週間前から38%上がった。一般医療にも影響が出ている。

い。県の政策参与で県立中部病院感染症内科の高山義浩副部長が1月1~16日の宮古・八重山医療圏の新規陽性者1234人の重症度を分析した。息切れや肺炎のある中等症Ⅰの割合は、金年齢では2~6%。これに対し80歳以上は32~35%、60、70代は7~6%。酸素吸入が必要な中等症Ⅱは全体の1~6%で、80歳以上だと21~4%だった。

高山さんは「地域連携を深めて病床を効率的に運用する」とや、ワクチン接種を進めて重症化を防いでいることが重要だ」と語る。

(編集委員・辻外記子、阿部彰芳)